

第34回全国大学メンタルヘルス研究会を終えて

第34回全国大学メンタルヘルス研究会 大会長
北海道大学保健センター長 武藏 学

第34回全国大学メンタルヘルス研究会が11月8、9日の両日、北海道大学学術交流会館にて開催されました。御講演、御発表、司会の労をお取り頂いた諸先生、御参加頂きました140名（内会員56名）の皆様には深く感謝申し上げます。前日までの荒天も収まり、特に北13条門から工学部に続くイチョウ並木はきれいに紅葉し、リフレッシュして頂けたのではないかと存じます。

特別講演は臨床児童精神医学研究所所長の山崎晃資先生による「児童青年精神医学における臨床の進め方」でしたが、特に発達障害が疑われる場合には周産期の状況から発育状況まで十分に聞き、場合によっては小学校～高校の情報も得た上での慎重な診断が必要であるなど、臨床に関わる者の慎重さ、謙虚さが求められる講演でした。教育講演は北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野の井上猛准教授による「双極性障害と大うつ病性障害の早期鑑別診断」で、早期に躁状態をピックアップして、誤診を避けるためのアプローチが示されました。研究班発表は「自殺問題検討ワーキンググループ 全国国立大学自殺アンケート報告」、「大学院における休学・退学・留年学生に関する調査—平成22年度調査結果を中心に」、**「Prevalence and risk factors of problematic internet use: A cross-national comparison between Japanese and Chinese freshmen」**、「大学生のインターネット・携帯電話利用に関する調査結果（第7報）」の4題、一般研究発表は6題でした。さらに2日目午後には北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座精神医学分野の橋本直樹助教によるワークショップ「自殺を考える学生との接し方 —メンタルヘルスファーストエイドを用いたゲートキーパー研修—」があり（72名の参加）、熱心な質疑応答と研修がなされました。

懇親会は学内のファカルティハウス「エンレイソウ」を借り切って行われ、64名の方に御参加頂きました。アトラクションとして北大交響楽団のピックアップメンバーによる弦楽四重奏、北大応援団による演舞が行われ、喝采を浴びました。

第33回に続く地方開催でしたが、盛会裡に終わることができ、杉田義郎全国大学メンタルヘルス研究会会長初め関係各位、御参加して頂いた皆様には厚く御礼申し上げます。